

平成 30 年度版
赤ちゃんふれあい事業
ガイドライン
(第二版)



八王子市
平成 30 年 4 月

1 「赤ちゃんふれあい事業」とは

赤ちゃんふれあい事業とは、次代を担う思春期の中学生が、妊娠・出産に関する知識を学び、赤ちゃんやその家族とふれあう体験を通じて、命の大切さを再確認し、自己肯定感を高め、豊かな人間性を育む取組です。この事業は、八南助産師会の協力のもと、平成 28 年度からスタートしました。

2 内容（標準的規模校での例）

（1）概要

主な内容は以下のとおりです。（実施する学校の規模により実施内容は異なります。）

1. 助産師による「性と生と命」の講義（標準的な所要時間：1 校時）
2. 妊婦・乳幼児親子とのふれあいや妊婦体験ジャケットなどを使用した体験学習（標準的な所要時間：1 校時）

標準的規模の学校では、2 クラスずつ講義と体験学習に分かれ、前半後半で交代し、2 校時を使います。

（2）講義

以下の内容などをパワーポイントを中心に、白板や模型、不織布パネル等を使いながら講義を行います。

項目	内容
①生つながり	生と命と性
②性と愛	性とは自分らしく生きる事。性における愛を考える。
③性と自己決定	性の自己決定という考え
④命の始まり	精子と卵子の特徴、受精卵の特徴
⑤胎児の発育	妊娠週数と胎児の発育
⑥命の誕生	出産の仕組み
⑦赤ちゃんの力	自分の力で泣く赤ちゃん
⑧まとめ	「命ある自分」の素晴らしさ 生まれて来た事・存在する事に価値がある。 「心と体」を守る事の大切さと権利 「生きる」事と命を受け継いでいくという事

(3) 体験学習

助産師会の司会進行のもと、グループに分かれた生徒が交代で各テーマ（下記ア～エ）のコーナーを回りながら体験します。妊婦さんや乳幼児（0～2歳）親子には、ボランティアで参加していただきます。（学校によって、体験するコーナーは変わります。）

ア 妊婦さんとの交流

お腹を触らせてもらったり、妊婦さんから話を聞き、質問したりします。

【留意事項】妊婦さんの安全管理と生徒の話がはずむように、助産師を配置します。

イ 妊婦体験

生徒が妊婦体験ジャケット（妊婦の身体への負荷などを疑似体験できるジャケット）を装着し、座ったり立ったり、いろいろな動作をすることで妊婦の身体動作を疑似体験します。

【留意事項】妊婦体験ジャケットは約7kgあるため、腰を痛めないよう、大人の補助者を配置する必要があります。（ジャケット1着に対し大人2名が望ましいです。）

ウ 乳幼児親子とのふれあい

実際に赤ちゃんとのふれあい、保護者の方の話を聞き、質問などをします。

【留意事項】乳幼児親子と生徒の交流が進むように、保育士、児童館職員、ファシリテーター（八南助産師会の実施するファシリテーター養成講座を受講した方）などの補助者を配置します。

エ 赤ちゃん人形抱っこ体験

新生児を模した人形で、赤ちゃんの重さや首の座っていない様子などを実感します。

【留意事項】アドバイスを行う大人が付き添う必要があります。（専門職か養成講座を受けたファシリテーターが望ましいです。）

3 各機関等の役割

(1) 中学校

市への実施申請・実施報告、会場の準備、関係者との調整を担当します。

準備～実施においては、中学校が中心となり、八南助産師会、地域の関係機関（保育園、児童館、保健福祉センター）や協力者（保護者、民生児童委員、学校ボランティア等）と連携しながら進めていきます。

また、効果的な事業の実施のために、生徒への事前指導などを行っていただきます。

(2) 子どものしあわせ課

赤ちゃんふれあい事業全体の運営に関する関係機関との調整、実施希望校の照会や実施日程の調整、八南助産師会への実施依頼及び委託料の支払いなどを行います。また、市の広報やホームページなどで妊婦さんや乳幼児親子の募集を支援します。

(3) 八南助産師会

中学校の担当教諭のお話を伺いながら、実施に必要な全般的な助言を行ったり、実施当日に必要な物品や協力者の員数等の助言をしたり等、実施当日までの準備を支援します。

また、妊婦さん・乳幼児の募集のとりまとめ、連絡を行います。

当日は、妊娠・出産・性と命の尊さに関する講義、妊婦・乳幼児親子の対応、体験学習の司会進行、赤ちゃん人形と妊婦体験ジャケットの持込みを行います。

※平成30年度より、妊婦体験ジャケット、赤ちゃん人形ともに、助産師会が必要数を持参することになりました。

協力者について

赤ちゃんふれあい事業の運営にあたっては、効果的な実施と参加者の安全確保のため、また、親子と生徒の交流のファシリテート役やジャケット装着補助として、子ども支援担当の保育士や児童館職員等の専門職員、PTA保護者や地域の皆さん（民生児童委員や学校サポーターなど）が協力者として支援しています。

学校の規模や実施内容によって、必要となる協力者の人数等は異なりますので、助産師会とご相談いただき、中学校とご協力いただく皆さんとが連携しながら、当日の運営・準備をお願いいたします。（学校によっては、年度当初の保護者会で、保護者への周知・協力依頼を行っているところもあります。）

なお、妊婦・乳幼児親子の募集については、市の広報やHPに掲載するほか、子どものしあわせ課から地域の子育てひろばや保育園・幼稚園等に対し、募集チラシの配付やママたちへの声かけの協力を依頼しています。



4 実施計画（平成30年度）

今年度の実施予定です。なお、ここに掲載している学校以外も、今後実施申請があった場合は調整し、対応してまいります。

中学校名	実施日	近隣の子育て支援施設 (公立のみ掲載)
打越中学校	5/8(火)	北野児童館
長房中学校	5/17(木)	津久田保育園 恩方保育園
第七中学校	6/29(金)	元八王子保育園 恩方保育園
由井中学校	9/12(水)	北野児童館
甲ノ原中学校	9/13(木)	中野児童館
石川中学校	10/4(木)	南大谷児童館
中山中学校	10/6(土)	子安保育園 恩方保育園
上柚木中学校	10/24(水)	由木児童館
鑓水中学校	10/30(火)	由木児童館
榑原中学校	11/2(金)	川口児童館
由木中学校	11/8(木)	由木児童館
第五中学校	11/13(火)	北野児童館
松が谷中学校	11/16(金)	松が谷児童館
横山中学校	11/22(木)	—
加住中学校	11/27(火)	中野児童館
横川中学校	2/28(木)	みなみ野保育園 恩方保育園
高尾山学園	3/4(月)	館ヶ丘児童館
みなみ野中学校	3/5(火)	みなみ野保育園 千人保育園
川口中学校	3/6(水)	川口児童館
南大沢中学校	3/8(金)	みなみ野保育園 北野保育園
四谷中学校	3/11(月)	元八王子児童館
七国中学校	3/12(火)	みなみ野保育園 千人保育園
第二中学校	3/13(水)	中野児童館

5 実施手順 ※時期はめやすです。状況に応じて、早めのご準備をお願いします。

以下におおまかな実施当日までのスケジュールと、準備内容を掲載します。

(1) 前年度の10月頃～

次年度の実施校を募集

子どものしあわせ課：次年度の実施希望を、全中学校に照会します。

中学校：市からの照会を基に、実施希望を提出します。

★様式：【1】赤ちゃんふれあい事業 実施希望調査票

(2) 前年度の12月頃

実施校の日程調整をし、次年度予定を順次決定

子どものしあわせ課：各校の意向をもとに、助産師会と日程調整をし、次年度予定を決定します。

助産師会：実施日程を調整します。

中学校：日程調整及び決定後、指導課へ教育課程の届出をします。

(3) 新年度すぐ

実施申請書を提出 (5月実施校は前年度中に個別にご案内します)

中学校：実施申請書を作成し、子どものしあわせ課に提出します。(メール、ファックスまたは交換便にて)

★様式：【2】赤ちゃんふれあい事業 実施申請書

子どものしあわせ課：実施申請書をもとに、助産師会に実施を依頼します。

助産師会：実施申請書の内容を確認し、順次中学校の担当教諭に連絡します。

※必要に応じて、この時期に子どものしあわせ課が実施説明会を行う場合があります。

生徒保護者(PTA など)に協力を依頼

中学校：赤ちゃんふれあい事業の運営には、PTA など生徒保護者のご協力をいただけるとスムーズですので、保護者会やPTA 役員会などを通じて、日程や協力依頼内容などを早めにお伝えします。

(4) 実施 5 か月前～

助産師会と中学校担当教諭との打ち合わせを開始

中学校・助産師会：打ち合わせを開始します。初年度は、中学校で直接会って打ち合わせいただくのが望ましいです。
(実施実績がある学校は、電話での打ち合わせでも構いません。)

協力者への連絡

中学校：近隣の子育て支援施設の職員等に、赤ちゃんとの交流のお手伝い参加を依頼します。

(5) 実施 4 か月前～

実施計画(指導案)を作成

中学校：実施計画(指導案)を作成します。

(6) 実施 3 か月前～

具体的な準備を開始

中学校：協力施設や学校ボランティアなど協力者の皆さんと、具体的な準備の打ち合わせを行います。
助産師会：中学校の準備を支援します。
子どものしあわせ課：妊婦さん・親子募集の周知をします。(HP やチラシ配付等)

(7) 実施 1 か月前～

当日に向けての最終調整と、生徒への事前指導

中学校：当日の流れ、人数、物品の準備等、最終確認を行います。
また、生徒のみなさんに対し、事前指導及び事前アンケートを実施します。
★様式：【3】事前、事後アンケート(八南助産師会作成)
助産師会：中学校と、実施についての最終確認をします。
また、参加の妊婦さん・親子の集約をし、当日の流れなどをご案内します。
子どものしあわせ課：妊婦さん・親子募集の周知をします。(市広報や SNS 等)

(8) 実施前日

関係機関への連絡(必要時)

中学校 : 翌日の実施予定について、変更がある場合は関係機関に連絡をします。

【重要】

荒天や流行疾患等で、事業を中止・変更する場合は、必ず、助産師会・小井戸(携帯・090-6658-2468)、子どものしあわせ課(620-7391)に電話をしてください。

※参加する妊婦さんや親子、子育て支援施設等に連絡をしますので、決定次第、速やかにご連絡いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

(9) 実施当日

事業の実施

※当日朝に、中学校、助産師会及び支援者のみなさんと、実施内容の最終確認をします。

中学校 : 実施中、可能な範囲で、写真を撮影してください。また、実施直後に事後アンケート、生徒のみなさんの感想文をお願いします。

★様式:【3】事前、事後アンケート(八南助産師会作成)

助産師会 : 事業の実施

(10) 実施後2週間以内

実施報告書の作成、提出

中学校 : 実施報告書を作成し、写真、生徒感想文と併せて、子どものしあわせ課に提出します。(メールまたは交換便にて)

★様式:【4】赤ちゃんふれあい事業実施報告書

生徒感想文は、当日協力した子育て支援施設等にも、ぜひお送りください。

子どものしあわせ課: 生徒感想文等を中学校から受領後、助産師会に送付します。また、実施報告書をもとに、助産師会に委託料を支払います。

助産師会 : ボランティア参加した妊婦さんや赤ちゃんのママ、パパからのアンケートや感想を、中学校に送付します。

※生徒感想文の提出については、様式の指定はありません。コピーを交換便でお送りいただく、学校だより等取りまとめたものを送付する等、いずれでも構いません。また、写真のご提出は可能な範囲でお願いします。なお、写真や感想文は、許可をいただいた場合に限り、市や八南助産師会のHPに掲載することがあります。

※妊婦さんから出産のご報告を受けた際は、中学校にもお知らせいたします。写真を送ってくださる方もいらっしゃいますので、保健室や教室掲示などで生徒さんにお知らせください。

6 関連様式・参考資料について

提出が必要な書類様式、及び、実施の参考となる資料を、下記のサーバに保存していますので、ご確認ください。体験コーナーは八南助産師会体験プログラム指導案に基づいて行います。

●書類等データの保存場所

教育ネットワークシステムパソコン内、

コンピューター → 教育委員会事務局(Y:) → O1_子どものしあわせ課
→ O1_赤ちゃんふれあい事業→【1】～【7】関連様式・参考資料集

●保存している書類一覧

(掲載は平成 30 年度実施事業用のものです。様式等は今後変更となる場合もあります。)

- 【1】赤ちゃんふれあい事業 実施希望調査票
- 【2】赤ちゃんふれあい事業 実施申請書
- 【3】事前・事後アンケート(八南助産師会作成)
- 【4】赤ちゃんふれあい事業 実施報告書
- 【5】指導計画(例)
- 【6】八王子市「赤ちゃんふれあい事業」指導案(八南助産師会作成)
- 【7】命の授業必要物品一覧(八南助産師会作成)
- 【8】赤ちゃんふれあい事業ハンドブック(八南助産師会作成)

7 FAQ

赤ちゃんふれあい事業の実施やその準備にあたり、子どものしあわせ課に寄せられた質問について、ご紹介します。

事業内容について

Q1. 赤ちゃんや協力者は、絶対に必要ですか？

A1. 学校の意向により、「乳幼児親子とのふれあい」は行わず、「赤ちゃん人形抱っこ体験」のみの学校もあります。ただし、生徒のみなさんのアンケートを見ると、実際の親子と話したりふれあったりする経験が、印象に残ったり、学びにつながっている面もうかがえますので、ぜひ「乳幼児親子とのふれあい」についてもご検討ください。

乳幼児親子が来ない場合は、赤ちゃん親子および保育士・児童館職員などの協力者は、必要ありません。ただし、妊婦体験ジャケット装着を補助する大人（保護者など）は必要です。

赤ちゃん人形や妊婦体験ジャケットについて

Q2. 車がないので、助産師会が赤ちゃん人形や妊婦体験ジャケットを持って来てくれませんか？

A2. 中学校のご事情を踏まえまして、赤ちゃん人形と妊婦体験ジャケットは、助産師会が各校に持参するよう変更しました。

支援者について

Q3. 保護者（妊婦体験ジャケット装着を補助する大人）は何人くらい必要ですか？

A3. 標準的な規模の学校で12名程度です。（妊婦体験ジャケットの装着補助2名×6グループ）
どうしても難しい場合は、1グループ1名で行うこともあります。妊婦体験ジャケットが重いので、負担が大きいと思われる。PTA などには、学年初めや学期初めの保護者会の際など、早めの時期に協力依頼をしている学校もあるようです。

Q4. 公立保育園の子ども支援担当とは、何ですか？

A4. 主に、0～2歳の未就園児などの地域の親子のために、交流や相談ができる場（子育てひろば）を提供するなどの活動している保育士です。公立保育園には10園に子ども支援担当の保育士（各園1名）がおり、赤ちゃんふれあい事業に協力をしています。

Q5. 私立保育園に協力をお願いしても構いませんか？近隣に私立保育園があるので、そこに協力を頼みたいと考えています。

A5. 私立保育園も、子育てひろばを運営している園などで、すでに中学校と連携して、協力している事例もあります。地域内でつながりのある園などには、ぜひ相談してみてください。市からも、私立保育園協会の集まり等において、本事業について説明し、中学校から協力のご相談があった際にはぜひご検討いただけるよう、伝えております。

8 市の問い合わせ窓口

子ども家庭部子どものしあわせ課

電話 042-620-7391 ファックス 042-627-7776

メール b470100@city.hachioji.tokyo.jp

(参考)

■八南助産師会について

八南助産師会HPより (<http://hachinan-midwife.com/>)

正式名称は「公益社団法人 東京都助産師会 八南分会」です。東京都の中の地域の分会の1つになります。八王子市、日野市、多摩市、稲城市に住所又は現場のある会員で構成されています。

助産所を開業されている会員を中心に、地域で活動している助産師が多く、市や地域との結びつきが大きいことが特徴の1つです。最近では病院、診療所に勤務する助産師の入会も増えており、定期的に行っている講演会や勉強会を通じて、会員同士の良い交流の場にもなっています。

助産師は産婆と呼ばれていた昔より、女性最古の職業として誇り高く生きてきました。

また、女性の性と生に寄り添う仕事であるため、女性たちに頼られる存在でもありました。

正常な経過をたどっている産婦であれば、医師なしで分娩の介助が行える開業権を持っています。

最近では小中学校に招かれて「生れることの尊さ」「生れてきた存在のあたたかさ」をお話しする機会も多くなっています。

妊娠中、子育て中の女性たちの良き相談相手となれるよう、助産師会を拠りどころとして、それぞれの助産師のパワーを高める場としてありたいと願っております。

〈問い合わせ〉八南助産師会・いのちの教育担当 助産師・思春期相談士 こいど 小井戸浩子
(携帯 090-6658-2468)

※恐れ入りますが、工作中は電話に出られませんので、八南助産師会ホームページの問い合わせフォームもご利用ください。(<http://hachinan-midwife.com/contact/>)



■参加した生徒たちの感想より

「色々と親に言われることもあって、『めんどくせえ』と思う時もあるけど、今日の体験や話を思い出して、一回整理してから物事に取り組めるように頑張りたい。」

「自分の命は沢山の人に支えられて生きていられることがわかった。大人になっていくと、『自分で決める』という場面が多くなっていくけれど、ひとつひとつに責任を持って行動していきたい。」

「まず自分が産まれてきた事がどれだけ素晴らしい事なのかを、改めて考えられた。もし自分に子どもができたら、母が自分を育ててくれているように、大切に育てていきたいと思います。」

「助産師さんの話を聞いて、自分は男性としてしっかりと相手のことを考えなければならない、ということに気づかされました。さらに一人ひとり、赤ちゃんのころから個性をもっていて、今の自分には出来ないことなどをしていておどろきました。今回の話を聞いて性や赤ちゃんに対する考え方が変わってよかったです。」

「最初は、出産は痛くて、怖くて、不安なものというイメージがありましたが、今回の授業を通して自分も子どもが欲しい、と生まれて初めて強く思いました。また、助産師さんの講義では『命』の重みや、妊娠・出産についての知識を得ることができ、とても勉強になりました。一生に一度の素晴らしい体験を、本当にありがとうございました。」

「私は正直、赤ちゃんはあまり好きではないと思っていました。しかし、今回ふれあった赤ちゃんはとてもかわいくて、心が温かくなりました。本当にかわいかったです。不安なことも多いなか、わざわざ足を運んでふれあわせていただいて、本当にありがとうございました。」

■参加したママたちから、生徒のみなさんへのメッセージより

「赤ちゃんを抱っこしてくれて、ありがとうございました。いざ小さい子を目の前にすると、戸惑うのは当たり前なのに、大事に抱っこしてくれていたのが伝わってきました。きっと皆さんも大事に抱っこされて大きくなったんだと、私のほうが改めて感じられました。」

「赤ちゃんやお母さんに、街などで会ったら、今日の経験を思い出して、優しくしてあげてくださいね。」

「育児は大変ですが、楽しいな、すてきだなんて思えることもたくさんあります！みなさんも、これからいろんな経験をすると思いますが、がんばってください。」